

◆ 港都税事務所長賞 ◆

「税に込める思い」

学校法人山脇学園中学校 3年 木部 優月

小学校の頃、私はこんな文章を目にしました。

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待を込め、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

これは学校の教科書の裏に書かれていた文章です。この文章は、私にとって税が身近な存在であることを気付かせてくれたとともに、大切なものなのだを知るきっかけになりました。そして、この取り組みも含め、税には「思い」が込められているのだと思いました。

今みなさんの周りには、税金が使われているものがたくさんあります。外を歩いているだけでも道路、救急車、信号機など必要不可欠なものが数多く挙げられます。仮に税金が足りなくなって、救急車がなくなったらどうしますか。とても困りますよね。そのためにも私たちは税金を払う必要があるのです。また、私たちが快適な生活をできるようにという「思い」を込めて税金を納めることも大切です。その「思い」を受け取って社会に繋げていき、良い方向へ向かうところまでが税の役割だと思います。

税金はただものを造ったりするためだけでなく、誰かを助けるためにも役立てられています。例えば、東日本大震災の復興作業では復興特別所得税という税金が使われています。今年で東日本大震災から十二年経ちますが、今も復興作業が行われています。過去には、鉄道の復旧などの活動も行っていたそうです。十二年経った今も税金を使った復興作業が行われているのはなぜでしょうか。それは、安心・安全な街づくりを実現したいなどの強い「思い」が込められているからだとは私は考えます。このような活動は、被災場所の人にとってはとても助けになったと思うし、私たちが払った税金が誰かの役に立っているということを見ると、とても嬉しいことだと感じました。そして、税金は国内の支援に留まらず、海外の支援でも使われています。これも、あなたの国の復興を応援しますといったような「思い」が込められているのだと思います。そうやって海外にまで税金を通じて「思い」を伝えることができるのです。

税金は私たちの生活を支えてくれています。逆に、私たちが払った税金も誰かの生活を支えているのかもしれない。私は、誰かの役に立ちたい、そういう「思い」を税金に込めたいです。そうすれば必ずその「思い」が届いて誰かの役に立つと思います。みなさんは税金を通してどのような「思い」を込めますか。